

テーマ：病室環境の改善（おうち気分）

■ 背景

- 病室は一般的には飾り気もなく、清潔感を保つために、淡い色の壁や家具等が備えつけられている。
- 精神的にも安定した患者さんが入院する場合は特に問題は無いと考えられるが、高齢の方や認知症の患者さんは、しばしば家に帰りたいとか、家が恋しいとかを訴える。
- ご家族や友人のお見舞いや面会が頻繁な方は良いが、新型コロナウイルス感染症などにより、面会が制限されることも多い。
- 窓から外が見える病室では治療後の経過が良いとの研究結果も報告されている。



【現状の実例】

■ 現在の状況、対応方法

- 特に病院側として積極的に病室内の雰囲気等を変えることは行っていない。
- 病室環境を過ごしやすく改善するのは、許容できる範囲で患者さんやご家族に任せている。
- テレビやラジオ等を設置、視聴できるようにしている。

■ 現在の課題

- 高齢者や認知症の患者さんの気持ち（寂しさや帰宅願望等）に配慮した病室環境にはなっていない。
- 病院としての規則（暗黙のルールを含む）等があり、容易に病室環境を変えることはできない。
- VR（Virtual Reality）の装着という試みもあるが、特に高齢者や認知症の患者さんはつけたがらない。

■ 使用頻度や市場性（マーケットサイズ）

- プロジェクションマッピングの世界市場規模
2021年 約28億 US\$（実績）
2027年 約84億 US\$（予想）

出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000821.000071640.html>

- 参考：病院数（一般有床病院）約7,300
一般診療所（有床）約7,000

出典：医療施設動態調査（令和元年5月末概数）厚生労働省

■ 解決策案の例（概念のみ）



機能アイデア例

- 自宅環境を再現できるような機能
- 居心地のいい雰囲気や楽しめるような環境を作り出す機能

＜イメージ図（出典：看護roo!）＞

■ リハビリテーション部ホームページ

http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/departament/central_clinic/rehabilitation_dep/index.html